

京都大と連携してウクライナ学生を受け入れ 学生用住宅 30 室を無償提供

2022/4/29 11:00 毎日新聞@大学



「学生情報センター」（本社・京都市、ナジック）は4月20日、ウクライナの危機的状況が続く中、京都大のウクライナでの学術交流協定校に対する学生の受け入れと生活支援について協力すると発表した。

キーウ市のビタリ・クリチコ市長（左）とオンラインで話す京都市国際交流協会のシガル・オレーナさん（右）と門川大作・京都市長＝京都市中京区で2022年4月6日

同社が京都市内で運営している学生用住宅から最大30室を1年間、無償提供する。提供される住居には、家具やエアコン、インターネット環境などが備わっているほか、英語が堪能な管理人が常駐し、日本人学生のレジデントアシスタントが日常のサポートを行うという。

同社は「この支援がウクライナの大学で学ぶ学生の未来につながる有用な学習及び研究の機会となり、日本におけるウクライナ支援の一助となれば」としている。

京都市とウクライナの首都キーウ（キエフ）市は姉妹都市提携を結んでおり、京都市の門川大作市長とキーウ市のビタリ・クリチコ市長は4月6日にオンラインで会談した。クリチコ市長が「ウクライナに手を差し伸べ、平和を守ってほしい。それは世界にとって重要なことだ」と支援を求めたのに対し、門川市長は「民間の方が亡くなっていると聞き、胸が張り裂けそうだ。国とも連携し、市民ぐるみで息の長い支援をしたい」と応じた。